

論壇メモ 異例の出版

小熊英二さん



歴史社会学者の小熊英二さん（慶応大教授）が新刊『論壇日記 2011.4-2013.3』（新曜社）を出した。本紙・論壇委員として毎月書いてきたメモをまとめたものだ。非公開が前提の文書だが、出版社からの希望もあって異例の出版となった。

論壇委員は、月1回朝刊に掲載される「論壇時評」紙面を支える社外識者で、6人いる。役割の一つが、雑誌などを広くチェックし、注目すべき論考を挙げたリストを提出することだ。「論壇メモ」と呼ばれている。小熊さんの担当分野は「思想・歴史」だ。

「ほんらい非公表のメモだが、私なりの同時代の諸論考をダイジェストしたものである。（略）何かを学べる人もある」と考えて出版することにしたと、まえがきに記している。

小熊さんは11年4月から委員を務める。本には13年3月までの2年分のメモを収めた。東日本大震災が起きた直後の時期であり、原発問題をめぐる思索の跡もたどれる。

委員に求められているのは簡略なメモだが、小熊さんは自身の考えで、文章形式の長文のメモを作ってきた。そのため本書は小熊英二版「論壇時評」のようにも読める。同時期に本紙「あすを探る」に書いた寄稿も収録されている。